

サカ、ハカ、バカ

～ねんりんピック長崎大会に参加して～

群馬惑惑倶楽部 丸山 徹

ねんりんピック長崎大会なのになぜか佐賀空港に着いた群馬県選手団を乗せたバスは、高速道路ではなく有明海沿いの一般道を走ったので、ムツゴロウが跳ねているはずの干潟に何隻もの船が干上がっているのを見ることができ、お陰様で干満差が6mもあることを実感することができた。鹿島市あたりの海岸近くの海はほとんど海苔の養殖場で、国道沿いにはカキ小屋と書かれた看板も目立っていた。メンバーのSさんは帰りにここに寄ってカキを堪能するのだそうだ。いいなあ。

さらに諫早湾に堤防を築いて干拓することが以前問題になったので、その後はどうなっているのか写真を撮ろうとしていたら、なんとバスはその堤防の上を通過したのだ。まだ干拓されていない内海が夕陽に輝いて美しかったが、たくさんの水門がまるでギロチンのように並ぶ様は、縦に見ると人間によって操作される心のないロボットの行列のように見えた。漁業関係者をはじめ多くの反対者がいるのがよくわかった。翌日の開会式後の交流会場に干拓の意義を説明するブースがあって話を聞いたが、「多くの農産物が採れるようになったことをマスコミは流してくれない」と嘆いていた。他人ごとに聞こえてしまうかもしれないが、とても難しい問題だと思った。



翌朝小浜温泉前の海辺に散歩に出ると、各旅館から排出される温泉の白い煙があちこちに上がっていた。ふとその並びに葬祭場があるのに気が付いた。葬儀のある日には別の白い煙が上がるのだろうか。

開会式が行われる諫早トランスコスモスタジアムは大会参加者約10650人をグラウンドに整列させられるほど巨大な競技場で、その後1万人がスタンドに上がってもまだスカスカだったので、ワールドカップの会場に招致できそうに思えた。常陸宮妃殿下や鈴木大地スポーツ

庁長官も出席しあいさつされるほどの大会なのだ。大人数で踊ったマスゲームも見事だった。

入場行進のさいに吹奏楽団により大ヒット曲「長崎は今日も雨だった」や長崎県出身の福山雅治の「家族になろうよ」など長崎県に関係のある曲が多く演奏されていたが、私がファンクラブに入っているさだまさしは「精霊流し」など暗い曲が多いのでさすがに演奏されないだろうと思っていたら、彼には珍しく元気な曲の「長崎シティセレナーデ」が流れたときは思わず涙があふれてしまった。そして彼の「がんばらんば」も演奏されていたが、この「がんばらんば」は体操になっていて、長崎県民はみな学校で踊ったらしい。実際、式後の交流会場で実演指導され、私もSさんと一緒に座ったままだが明日のためのストレッチ代わりに何度も踊った。

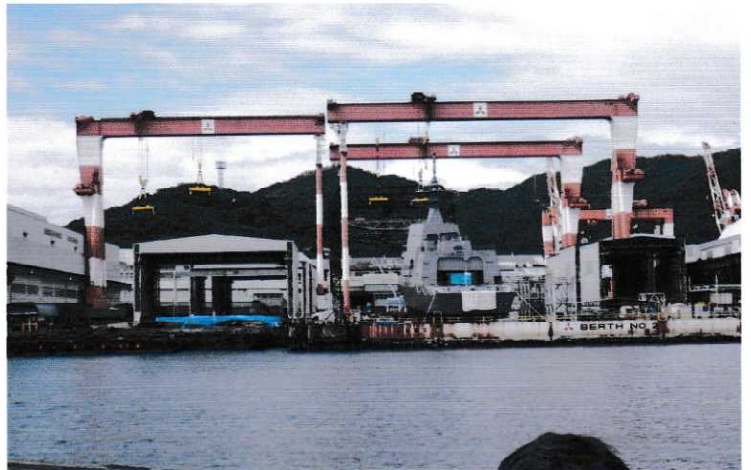


同じ大村市で行われる3つの競技の合同開会式で、5人くらいのつまらないあいさつを聞かされたが、そのなかで39歳の大村市長だけは元ラグビー選手ということで、はきはきとした口調でさわやかにあいさつをし、大拍手をもらっていた。吉田拓郎がかつて「古い船をいま動かせるのは古い水夫ではないだろう」と歌ったのを思い出した。スポーツと違って古い政治家は引退すべきだと思う。

3日目の初戦は気合の入った地元長崎Aとの対戦で、前半圧倒されて3トライされてしまった。後半ようやく2トライして追いついたが、結局10-22で敗れてしまった。しかし、スクラムからNo.8の花房さんが持ち出してセンターの私が直接もらって突進する「ハナマル」のサインが決まってチャンスを作り、そのラックから2次攻撃をして快速塩崎が走り切ってトライするというパターンができてきた。慣れないマウスピースとヘッドキャップをしてのプレイは辛かったし、5年前にアキレス腱を切った人工芝だったが、なんとかがんばれた。

試合が10時5分に終わると、さあ観光だ。15時45分のバスまで待ってられるわけがない。

タクシー5台で近くの長崎空港まで行き、長崎市内行き的高速バスで長崎港へ移動した。12時発の長崎港観光船を19名全員予約してあるのだ。試合中は雨もぱらついていて、出港する頃には晴れて、明治産業遺産として昨年世界遺産に登録された中の一つである造船用のドックや巨大なクレーンを眺めながら、帆船のようなつくりの船のデッキでさわやかな風を浴びることができた。年配のカナダ人夫婦が乗っていて、3週間も日本を巡るのだそうだ。そんな旅行を妻と早くしてみたいものだ。次回のゴールデンオールディーズこそ。



財布をタクシー内に置き忘れたため乗船しないで警察に届けに行っていたYさんのチケットの払い戻しに行ったとき、払い戻しの理由を告げたら「それなら届いています」とのこと。その後Yさんも乗ったはずの船を見ながらオープンデッキで飲んだが、Yさんにおごってもらった生ビールは実においしかった。脇を通っていくたくさんの人たちもうらやましそうに見ていた。



それから長崎名物のチャンポンを食べに元祖の四海楼へ酔い覚ましに歩いて行った。超有名店なので30分待ちと表示されていたが、昼の営業終わりだったので10分くらいで済んだ。私は4年前にもう一つの有名店である江山楼で1400円の上チャンポンを食べているので具が少なく感じたが、とんこつ味だがスープがすっきりしていて食べやすかった。それよりも温かくした紹興酒が口当たりがよいので、8人で2本飲んでしまった結果、Oさんは酩酊して四海楼のことを何度も満珍楼と言ってきかなかった。ここは横浜中華街か。

次は長崎名物のカステラをということで、タクシー2台で松翁軒へ行った。もう一つの有名店である福砂屋は先日スズランの全国うまいもの市にも出店していたので、手に入れづらいこちらにしたのだ。どれもおいしそうで小倉や抹茶などいろいろな味付けのものも買ったが、さだまさしの小説「かすていら」で知った卵黄を増やして卵白を減らし砂糖も増量して生地の上り感をより濃く醸し出した「五三焼き」を、自分へのご褒美で買ってみたい。帰ってからゆっくりと味わってみたら、倍以上の値段したのだが、甘くてねっとりしていてそれだけの価値が十分にあった。

夜の懇親会、参加26チーム中18チーム集まって盛り上がった。なお、8チームは参加しないのではなく、525人も入れる会場がないので九州のチームに遠慮してもらったのだそうだ。こんな年になっても、体中に湿布を貼ってでもラグビーをしたいバカ者たちの集まりなのだ。勝ち負けはほとんど関係なくて、まだプレイできることがうれしくてたまらないのだ。「できれば芝生の上で死にたい」と豪語している人も私を含めて多数いる。この場に先日亡くなった山口会長の姿がないのが、ずいぶんお世話になった人なので残念でたまらない。ラグビージャージ姿の写真を、下山会長代行が首から提げてずっと持ち歩いてくれているのがうれしい。

4日目の2戦目は、最初に私が敵の隙をついてペナルティキックからチョン蹴りして3~4人抜いて独走トライをしたことでペースをつかんだ後、前日できあがった「ハナマル」などから私がある程度前に出て敵を何人も引き付けたラックや、私のハードタックルで相手を仰向けに倒してボール奪ったラックから展開したりして、快速ウィング北野さんが4トライもして36-10で神戸市に大勝した。最近はおっぱら右ウィングをしていたが、チーム事情でやってみたセンターも楽しくなってきた。ただし、ちょっと後ろにこぼしたボールをキックで逃れようとしてミスキックしてしまったところからトライされたことは反省しなくちゃ。

今日も試合が終わったら即観光。島原方面や韓国へ行く人たちを除いた10人で佐世保バーガーを食べに行くことにしたのだ。シャトルバスで大村駅へ行き、JRの快速シーサイドライナーで佐世保駅まで行った。八高線を思わせる2両編成のジーゼルカーでワンマンカーだが、内海である大村湾は波もほとんどなく光り輝いていて、私たち海なし県民たちは思わず歓声を上げてしまった。

駅前がすぐ港で、せっかくなので軍港見学クルーズを申し込もうとしたら満員であきらめ、勧められたHikariという店に行った。ビーフのパテがさすがにおいしかったし、レタスにかけられているソースが甘くてそれでいて酸味も感じられる抜群の味で実においしかった。わざわざ食べに行く価値が十分にあった。TVの「Youは何しに日本へ」という番組でオーストラリア人が何度も日本に来て佐世保バーガーを食べ歩いては「Monday, Tuesday, Sasebo…」と歌っていたのを見ていつかはと思っていたのだが、念願がかなった。

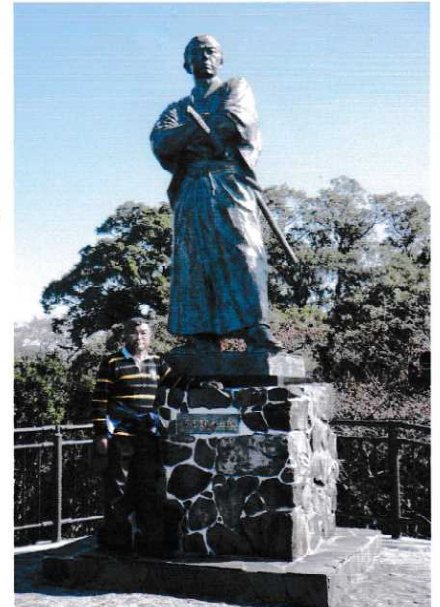


帰りの車内で埼玉から卓球に参加した女性と隣り合わせになり、競技こそ違ってもこんな年までできる喜びの話で盛り上がった。ラグビーは「きつい、きたない、きけん」の3Kのイメージが強く敬遠されがちだったが、昨年のワールドカップで南アフリカに勝ったことや五郎丸ポーズもあって一躍人気再燃してきている。一方卓球は運動神経のない子が入る部活でださくて暗いイメージだったが、福原愛ちゃんの人気で徐々にイメージアップし、オリンピックでも毎回メダルを取れるようになったし、男子も水谷選手がドイツリーグで鍛えた結果激しい動きでメダルを取ったことですっかりイメージが変わったようだ。私たち高齢者が頑張っている姿を見せることで、生涯スポーツとしてより定着させていきたいと思う。

宿に戻って 17 時でも西日本はまだ十分明るいので、元気な 5 人だけだが近くの風頭山公園へ散歩に行った。巨大な坂本龍馬像が腕を組んで港を眺めているのと同じポーズで写真を撮ったり、もう閉まっていたが龍馬たちが作った日本初の貿易商社である亀山社中を訪ねたりしてきた。山の頂上なのでほとんど平らのはずだったが、



急な階段を上ってきても
のすごく大変だった 4 年
前の逆コースだから楽だ
と思っていたのに、けっ
こう上り下りあってみんな
に悪いことしてしまった
と後悔したが、「楽し
かった」とは言ってもら



えなかったものの、坂の町で知られる長崎を体感できて
「いい思い出になった」と言ってもらえてよかった。宿
に着く直前の店で売っていた小粒ながら 10 個以上入って
100 円というみかんで渴きを癒すことができた。4 年前と
同じように甘くてみんなにも喜んでもらった。

夕食後に世界新三大夜景となった稲佐山からの夜景を
見に行くつもりだったが、タクシーが手配できなかった
ので、宿の最上階で夜景を見ながら打ち上げをすること
になった。ホテル弥太樓は稲佐山の反対側の風頭山頂に

あってロビーが 9 階という斜面に立っているの、稲佐山に負けないくらいの夜景をつまみに 8 人でワインを 8 本も空けてしまった。特別に使わせてもらえるよう交渉してくれた上に支払いまでしてくれた花房さんに感謝。

その酒宴で、「マネージャーの後藤さんのお陰でこのねんりんピックへの参加をはじめ小樽などの遠征に行ける」と感謝の言葉が相次いだ。毎日一日の半分くらいを様々な事務に費やしているようで、本当に大変な役割である。「もう誰かに譲りたいが、勤めをしている人に任せるのは忍びない」と悩んでいる状態だという。私も箕郷還暦野球チームの事務局をしているのでよくわかるが、難しい問題だ。ついでに「丸山旅行社のお陰であちこち観光ができてうれしい」と感謝の言葉をいただいたが、私が好きでやっていることでみなさんに喜んでもらえることで私も喜びを感じているのだ。逆に私は「最年長の 75 才でありながらフル出場し、スクラムハーフとして必ずポイントからポイントまで走り、腰をしっかり落として正確なパスをしている下山さんをたたえたいと思う」と発言した。みなさんも同感だと言ってくれた。私のモットーとしている「あせらず、あわてず、あきらめず」をみごとに実践しているので、尊敬するとともにお手本にしたいと思っている。

最終日はバスで太宰府天満宮に寄っただけで、福岡空港から帰路についた。お参りは簡単に済ませ、念願の国立九州博物館に走ったが、「鳥獣戯画」展をやっているせいか平日にもかかわらず入館まで 30 分待ちとあってあきらめた。そこでさだまさしの「飛梅」という曲に出てくるお石茶屋の梅ヶ枝餅を食べに行くと店休日だった。37 年前の新婚旅行で食べたのに残念だ。しかたないので他の店のものがまんした。

ラグビーも観光も満足な旅だったが、最後が尻つぼみだったのがちょっと残念。来年のねんりんピックは秋田県、私の亡き父の故郷だ。また丸山観光社が活躍することになることだろう。